

# クラウド時代のビジネスプラットフォーム・ ランドデザイン策定支援サービス

将来に向けたIT環境のあるべき姿を描き、実行計画を策定する



進化するテクノロジーやビジネス環境の変化への対応力を手に入れるためには、  
 ビジネスプラットフォームとしての情報システムを再構築する必要があります。  
 その最初に求められるのがランドデザインの策定です。

IBMは豊富なプロジェクト経験に基づき、お客様のビジネスプラットフォームのランドデザイン策定をトータルにご支援します。

## 将来に向けた青写真と そこに至る実行計画の策定を

企業を取り巻く環境が目まぐるしく変化・発展する中、クラウドやAIなどの最新テクノロジーを活用して新たな価値創造に取り組むことは、お客様において重要なテーマとなっています。これまで作り上げてきたアプリケーション資産や蓄積されたデータは現在のビジネスに欠かせないものである一方、改修を繰り返してきたことでシステム全体が複雑化し、機能追加やデータ活用に多大なコストとリードタイムを要するようなケースも出てきています。また、マスターを含めたデータの品質に課題を抱えているお客様もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今や情報システムはビジネス活動そのものを支えるプラットフォームであり、それを効率的かつ効果的に活用できるかどうかはビジネスの将来を左右します。今後15年、20年を考えると、さまざまな技術変革に追従しながら、最小の時間とコストでビジネスニーズを満たすアプリケーションをリリースできる、柔軟性を備えた情報システム環境になっていなければなりません。

そうした戦略的な投資が可能な、情報システムのあるべき姿にしていくことが、お客様にとって大切な取り組みとなるとIBMは考えます。自社の強みを生かしつつ、クラウドを利用し外部の力を取り込む、さらには自社の強みをサービスとして外部に公開する——そうしたハイブリッド・マルチクラウド環境のビジネスプラットフォームの整備に向けた指針となり礎となるのが、ランドデザインの策定です。

情報システムの老朽化対策、テクノロジー活用、ビジネススピードの向上など、検討のきっかけはさまざまですが、ランドデザインを策定して将来のビジネス環境にも対応できるビジネスプラットフォームづくりを進めようとする企業は着実に増えています。その第一歩

として、IBMは「ランドデザイン策定支援サービス」を提供しています。

## IT構造をモジュール化し ビジネススピードを高める

### ●「ランドデザイン策定支援サービス」とは

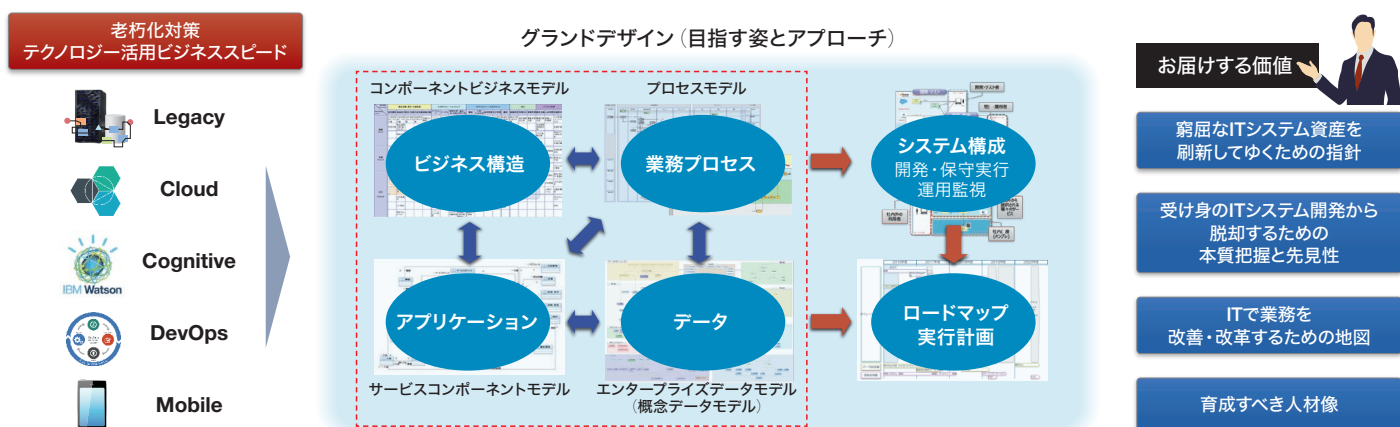
ランドデザイン策定支援サービスは、テクノロジーの進化や環境変化への対応力を高めるために、複雑化したシステム環境を解きほぐし、目指すべき姿を描き、そこに至る実行計画を策定するサービスです。検討にあたっては、お客様の「ビジネス構造」と「業務プロセス」、「アプリケーション」、「データ」などを分析し、あるべき「システム構成」を検討し、実現に向けた「ロードマップ」を作成します（図1）。

### ●ランドデザインの難しさとIBMのアプローチ

各種クラウドサービスの進化と拡充を受けて、企業では社外から提供される優れたサービスを活用して、新しいサービスやプロセスを機敏に立ち上げ、ビジネスの競争力向上につながる動きが加速しつつあります。そうした活動を支えるIT環境では、社外のさまざまなサービスと自社が所有する環境とを組み合わせ、設計、開発、テスト、運用・保守、拡張をしていくことになります。しかし、クラウド時代では技術や機能の「モジュール」が入れ替わるスピードも速く、アプリケーションの開発や保守の方法、監視や運用の仕組みには、従来にない難しさが現れます。

そのため、ランドデザイン策定にあたっては、ビジネスとITの全体像をとらえた中長期的な視点に立って、段階的な移行や「モジュール」の入れ替えを行いやすくする工夫が必要です。部分最適を脱却して全体最適化の道筋をつけるため、難易度は高く、

図1 グランドデザイン策定支援サービスとは



リスクをコントロールするためには高度なノウハウが求められます。IBMのグランドデザイン策定サービスでは、まず業務やデータ、アプリケーションを「共通」と「個別」、「不変」と「可変」の観点から分析して再利用性の高い部品に分割した上で、それらを疎結合で組み立てた「あるべき姿」を描きます。モジュール化によって、アプリケーションの容易な入れ替えが可能となります。

また、グランドデザインに際しては、何を外部から調達し、何を社内で開発するかかの選別が必要です。開発や稼働、運用をどのIT環境で行うのかという方針を決めた上で、中長期的な開発移行計画を立案します。

IBMは多くのプロジェクト経験を通じて蓄積した参照モデル、方法論などを体系化しています。こうしたノウハウをもとに、お客様の現状を踏まえた上で解説書や構想書などの必要な知見を提供するなど、グランドデザインのプロセス全体をサポートします。

### ●代表的なアウトプット

具体的には、次のようなアウトプットを提供します。

- **アーキテクチャー解説書**……IT構造全体の原理原則、業務で扱うデータの体系・構造、データを生成・利用する業務プロセス、業務プロセスを支えるアプリケーション構造、アプリケーションを開発、稼働、監視するためのインフラ技術標準や配置設計を網羅したものです。アプリケーションとデータについてはビジネス構造や業務プロセスと整合性を確保しながらモジュール化・サービス化を徹底し、高い柔軟性や拡張性を実現します。
- **ガバナンス構想書**……アーキテクチャーのガバナンスを規定するものです。ガバナンスとは、管理できるようにすることであり、どのような基準・ルールに従って、誰がどのようなプロセスで活動するのか、誰がどのような責任と権限を持っているのかなどのガバナンスを確立するための必須要素に関して構想立案を行います。
- **トランジション計画**……目指すアーキテクチャーを段階的に実現していくためのステップを描きます。既存アプリケーションが複雑に絡み合うIT環境を、一気に「あるべき姿」に移行することは困難です。企業の戦略や経営の優先順位に基づき適切なステップを踏むと同時に、各ステップでIT環境の「断面設計」を作成した上で、具体的な実行計画を描けるようにします。
- **実行計画**……トランジションを実現するため具体的な工程を、複数のプロジェクトとして取り組めるようにした実行計画にまとめ

ることで、クラウド時代のIT環境への構造変革をグランドデザインに基づいて実行できるようになります。

### ●スケジュールと体制

グランドデザインの策定は「方向付け」から「原案策定」、「全体設計」という3つのステップで進みます。企業規模やスコープなどによって期間は変わりますが、通常、半年から2年程度を要します。大規模な場合には、時間のかかる取り組みとなるため、プロジェクトの推進力を維持することが重要です。

企業の置かれた状況や戦略は、お客様によってそれぞれ異なります。IT部門のリソースが豊富な企業もあれば、そうでない企業もあります。グランドデザイン策定とその計画の実行を通じて、人材を育成したいと考える企業もあるでしょう。そうした個別のニーズにも、IBMは対応します。いずれにしても、お客様とIBMの専門家が1つのチームとして活動することが重要であり、それが優れたグランドデザインを策定するための秘訣です。

## 「大きく描いて、小さく始める」ことが成功のカギに

IT環境の変革に対して社内のベクトルを合わせるためには、ビジネスや組織にも通じた深い知見、説得力のあるロジックが求められます。トランジション計画では、営業力強化や経営の可視化と行ったビジネス成長に直結する部分から手をつけて、できるだけ早期に目に見える成果を示すといった工夫も必要でしょう。こうしたプロジェクト企画ノウハウもご提供できます。

IBMは3カ月程度で大きな方向づけを支援する、スモールスタートのメニューも用意しています。その際にも、長期的な視点が欠かせません。グランドデザインそのものに加えて、グランドデザイン策定活動自体にも、「大きく描いて、小さく始める」という構えが重要です。

\*\*\*

不透明な時代を企業が勝ち抜くためには、部品化された機能を適宜組み替えていくというスタイルが求められます。そのためには、クラウドの活用を避けて通ることはできません。クラウドという大きな潮流に向き合い、それを競争優位につなげるため、IBMはグランドデザイン策定をパートナーとして支援します。

図2 アウトプット・イメージ





---

## 日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510  
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

© Copyright IBM Japan, Ltd. 2017  
All Rights Reserved  
07-17 Printed in Japan

IBM、IBMロゴ、ibm.comは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、[www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml)をご覧ください。

当資料の内容は発行日現在のもので、IBMによって随時変更される可能性があります。掲載されている製品・サービスはIBMがビジネスを行っているすべての国・地域でご提供可能なわけではありません。

IBMは本書の情報を「現状のまま」提供し、一切の保証を行いません。IBMは、商品性、特定目的との適合性、および第三者の権利の非侵害のあらゆる保証を含め、明示的にも黙示的にも表明保証を行いません。IBM製品は所定の契約書の条項に基づき保証されます。

当資料は一般的な助言のみを目的としています。当資料は詳細な調査または専門的判断の行使の代替とされることを意図したものではありません。当資料に依拠したことにより組織または個人が被ったいかなる損失についても、IBMは一切の責任を負わないものとします。

---